

先日は手賀沼定例探鳥会にご参加いただき、ありがとうございました。てがたんの観察記録のレポートを作成しましたので、ご覧ください。次回2月のてがたんは、2月8日(土)で、「冬越しする生きもの」がテーマです。身近な生きものたちが、どのように寒い冬を乗り越えているのか観察しましょう。ご都合のつく方は、ぜひご参加ください。

*市民スタッフの方へ 次回のとがたん下見は、2月1日(土)の9:30からです。

13:30からは来年度のとがたんの打ち合わせも行います。よろしく願いいたします。

1月の観察コースと内容

- コース：鳥の博物館→親水広場→漁協前→親水広場(解散)
- 観察日時と天気：2014年1月11日(土) 10:00～12:00 晴れ
- 参加人数：30人(大人20人、こども10人)
- 市民スタッフ：11人(須貝基康、蒲田知子、伊東茂子、岡廣志、木村稔、小泉伸夫、染谷迪夫、竹本周平、弘實さと子、松村定雄、湯瀬一栄)
- 鳥博職員：2人(小田谷嘉弥・染谷実紀)

観察した生き物の記録

【鳥類】

カモ科：カルガモ、オナガガモ／カイツブリ科：カイツブリ、カンムリカイツブリ、ハジロカイツブリ／ハト科：キジバト／ウ科：カワウ／サギ科：アオサギ、ダイサギ、コサギ／クイナ科：オオバン／カモメ科：ユリカモメ、セグロカモメ、ニシセグロカモメ／タカ科：トビ、ノスリ／カワセミ科：カワセミ／カラス科：ハシボソガラス、ハシブトガラス／シジュウカラ科：シジュウカラ／ヒヨドリ科：ヒヨドリ／ムクドリ科：ムクドリ／ヒタキ科：ツグミ／スズメ科：スズメ／セキレイ科：ハクセキレイ、セグロセキレイ／ホオジロ科：オオジュリン(合計27種)

外来種・家禽：コブハクチョウ、バリケン、アヒル／ドバト

虫

コバネイナゴ(モズのはやにえ)、イラガ(卵)、ジャコウアゲハ(さなぎ)

木の実・花

ナンテン、ハゼノキ、トウネズミモチ、アオキ、ムクノキ(以上、木の実)、ヤブツバキ、セイヨウタンポポ(以上、花)

哺乳類

アズマモグラのモグラ塚

観察した生き物の記録



今回のてがたんのテーマは「カモいろいろ」でした。手賀沼沿いを歩いてオナガガモを中心に水鳥をじっくり観察しました。



今月の案内人 須貝基康さん、蒲田知子さん



② 親水広場の池には氷が張っていた



③ アシ原で餌をとっていたオオジュリン



④ パンをめぐって争っていたオオバン



⑤ 翼に茶色の斑点がある若いユリカモメ



⑥ 赤い実をつけていたナンテン



① 人のまわりに餌が集まるオナガガモとオオバン



歩いたルートと観察した生き物



⑦ ミニ手賀沼で休んでいたカルガモ



⑧ 未熟な実をつけていたアオキ



⑨ モズのはやにえになったコバネイナゴ



⑩ 南米原産の家禽、バリケン



⑪ ペアになっていたオナガガモ



⑫ ハゼノキの実を食べていたムクドリ

今月の鳥 オナガガモ カモ目カモ科

オナガガモは冬にロシアなどから渡ってくるカモの仲間です。オスは長く伸びた尾羽をもつことが特徴です。日本では、オナガガモは人のまわりの餌にもっともよく餌付くカモで、餌付けをしていない場所では低い割合でしか見られません。北へ旅立つ時期はほかのカモよりも早く、関東地方では3月上旬から渡去がはじまり、4月にはほとんど見られなくなります。彼らを観察できるのもあと1か月あまり、ぜひ水辺へお出かけください。



給餌に集まるオナガガモの群れ

てがたんにご参加ありがとうございました。次回もお待ちしております。